

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
E132M003		家庭科授業研究(中等) (Studies in Teaching of Home Making (Junior High School))							対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択	2	3	教育学部 令和2年度 以降入学生用		木2	日本語		単独						
担当教員	氏名 財津 庸子 E-mail yzaitsu@oita-u.ac.jp 内線 7601													
授業の概要	中学校・高等学校家庭科の授業づくりについて、個人でテーマを決めて、教材研究・教材開発・模擬授業・省察・改善案作成を一貫して行うことにより、実践力を高める。そのために、附属中学校または公立中学校等での参与観察等を行い、教育現場での実際の指導の様子を学び、実際に活用できる教材開発を行い、模擬授業や可能であれば協力校での授業実践により検証し、改善案まで検討する。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1 家庭科指導法(中等)、家庭科授業論をふまえ、中学校・高等学校家庭科の授業づくりを構想する。								○						
目標2 個人でテーマを決めて、教材研究・教材開発・模擬授業をする。										○				
目標3 模擬授業や協力校での授業を省察し、改善案を作成する。								○						
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)								6		4				
授業の内容														
1	中学校・高等学校家庭科の授業づくりの基礎的事項の確認													
2	中学校・高等学校家庭科の授業の参与観察													
3	参与観察から学んだことについての討論とまとめ													
4	テーマ決定のための実践事例収集と整理													
5	中学校家庭科の授業づくりについての個人テーマの決定・計画作成													
6	テーマに即した中学校・高校家庭科の教材研究1(実習を含む授業における教材)													
7	テーマに即した中学校・高校家庭科の教材研究2(実習を含まない授業における教材)													
8	教材開発1(実習を含む授業における教材)													
9	教材開発2(実習を含まない授業における教材)													
10	模擬授業1(実習を含む授業)													
11	模擬授業の改善													
12	模擬授業2(実習を含まない授業)													
13	模擬授業の検証													
14	教材および指導案の改善案作成													
15	全体のふりかえりとまとめ													
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	実践例の収集・分析、授業の参与観察、教材研究・開発、指導案作成、				工	その他の						
	B:意見の表現・交換	○	模擬授業、授業実践、				そ							
	C:応用志向	○					夫							
	D:知識の活用・創造	○					の							
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	中学校・高等学校の家庭科教科書・学習指導要領解説家庭編、参考書の講義該当箇所の予習(15h)												
	事後学修	中学校・高等学校の家庭科教科書・学習指導要領解説家庭編、参考書の講義該当箇所の復習(15h) 授業の参与観察の整理、教材研究・開発、指導案作成、模擬授業、授業実践(15h)												
	想定時間合計	45												
教科書	文科省 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編(2017)ISBN978-4304021541 , 中学校 技術・家庭 家庭分野 開隆堂(2021)ISBN978-4304081019 文科省 高等学校学習指導要領解説 家庭編(2018)ISBN978-4877304195 , 高等学校家庭科教科書(手持ちのもので可) 中学校家庭科教科書(開隆堂)													
参考書	中西雪夫・小林久美・貴志倫子共編「小中学校家庭科の授業をつくる～5年間を見通すための理論と実践・基礎知識」学術図書出版(2023)ISBN978-4780610765 ,伊藤葉子編著「新版 授業力UP 家庭科の授業」日本標準(2018)(2018)ISBN978-4820806462,責任編集 牧野カツコ・お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会著「アクティブラーニングが育てる これからの家庭科」地域教材社(2017)													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート	50%	○	○	○							
	課題	50%	○	○	○							
注意事項												
備考	この科目は『地域創生教育科目』です。 実習をともなう教材研究の場合、自己負担が生じることがある。											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の有無	○											
教員の 実務経験	中学校・高等学校の家庭科教員											
実務経験を いかした教 育内容	実際の教育現場における指導経験や専門的知識・技能が、学校教育現場の理解に基づく指導のあり方や指導案等に活かす。											